令和2年度生活困窮者自立支援制度人材養成研修
就労支援員・就労準備支援事業従事者養成研修

就労支援を通じた地域づくりについて

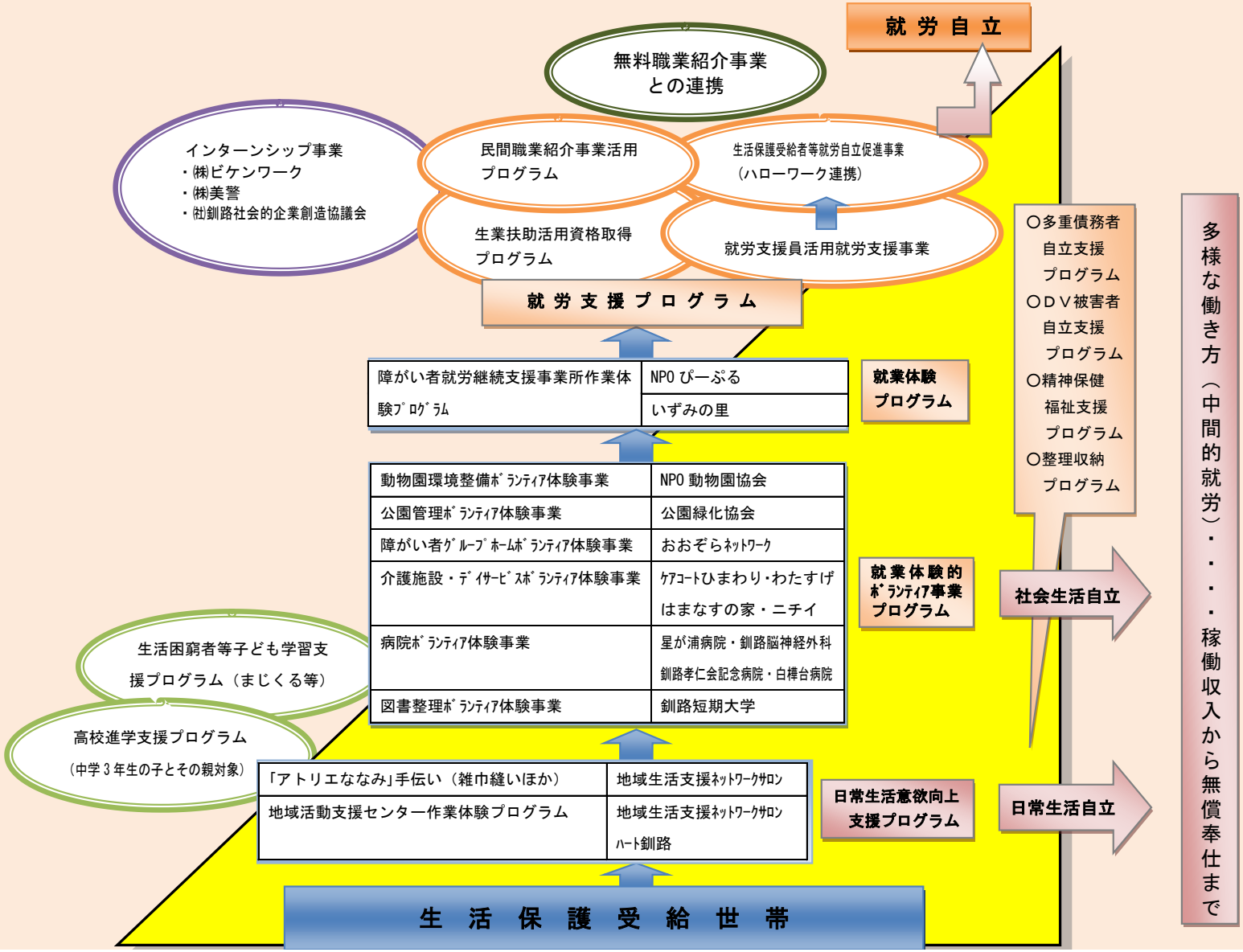
（一社）釧路社会的企業創造協議会副代表
釧路市・釧路管内生活相談支援センターくらしごとセンター長
櫛部　武俊

2004年生活保護世帯自立支援釧路モデルの取り組みから18年余になった⇒2020年の到達点

就労支援を通じた地域づくりはどこまできたのか？

現在の自立支援プログラムとその実績

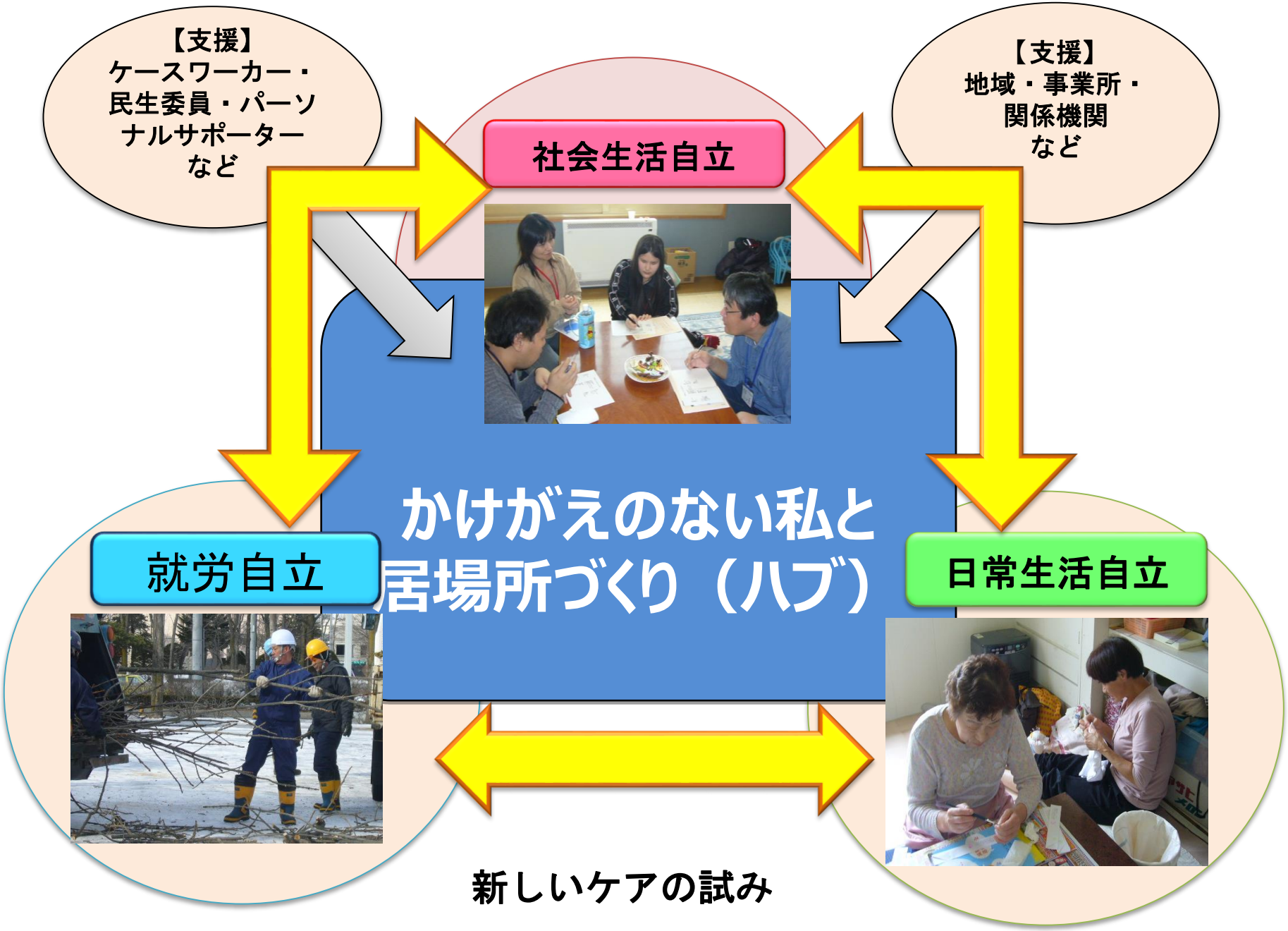
釧路市生活保護自立支援プログラム全体概況（H31 年 4 月現在）



自立支援プログラム～自立支援プログラムのススメ～

釧路市生活福祉事務所

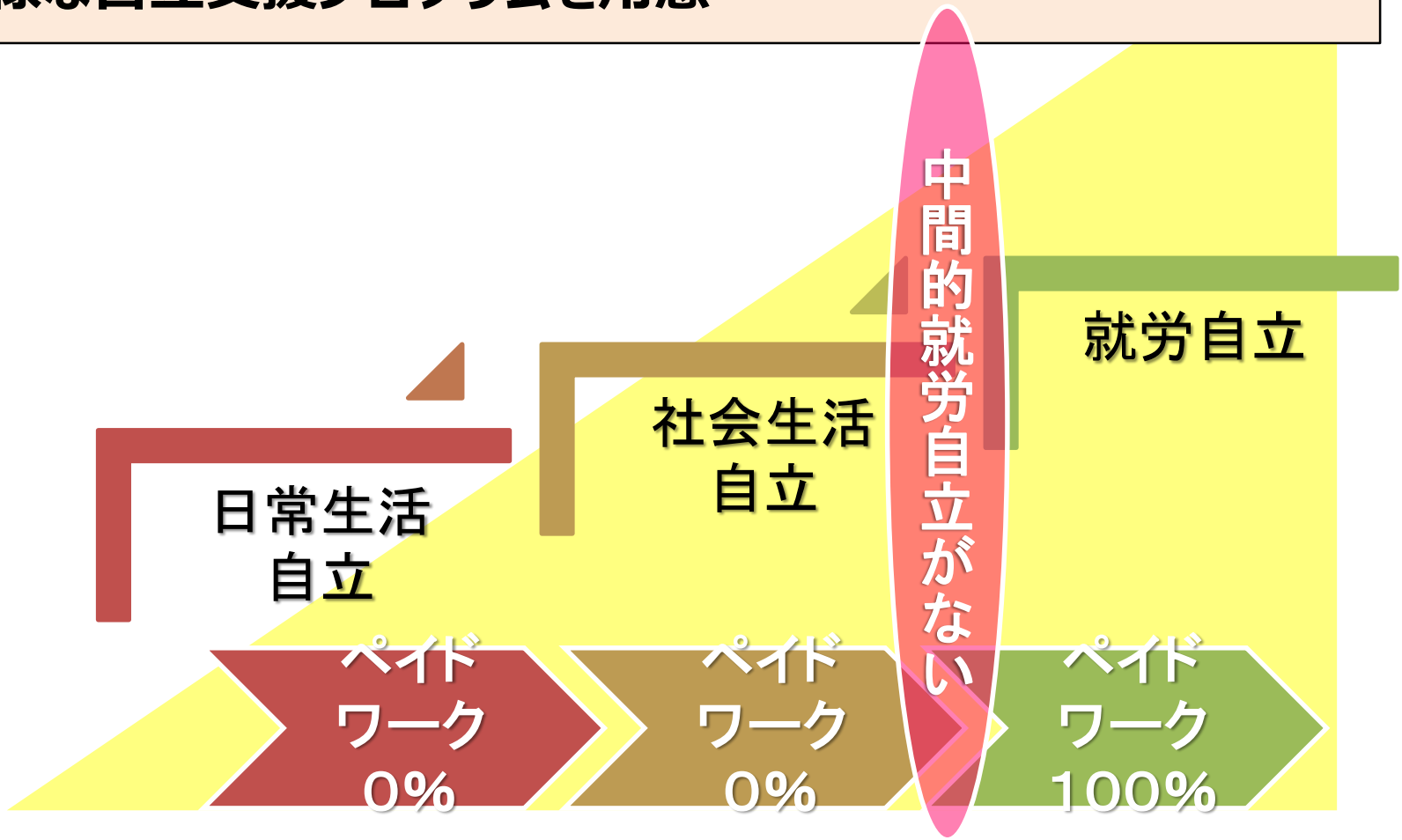
オッチャンたちの誇り


【支援】
ケースワーカー・
民生委員・パーソ
ナルサポーター
など
【支援】
地域・事業所・
関係機関
など
社会生活自立
かけがえのない私と
居場所づくり（ハブ）
就労自立
日常生活自立

新しいケアの試み

釧路モデルの分析

ただちに就労困難、あるいはケースワークだけでは就労困難な生活保護受給者を対象にご本人の「ステージ」に応じた多様な自立支援プログラムを用意



漁網の仕立て作業・・支え合う通い場

自立の道広げる 体育館ネット

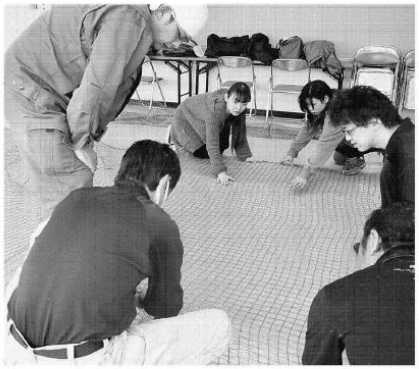
生活保護受給者が漁網作りで「経済的な自立」を目指す釧路市の事業で、参加者たちが31日、釧路フィッシャーマンズワーフMOO内に市が今春、開設予定の津波避難施設兼体育館内に張るネットを加工した。漁網以外の製作に携わるのは初めてで、生産品の多様化に向け「第一歩になる」と作業に熱を込めた。

ネットは球技で使用するスペースと子供用の遊具の収納場所を仕切るために取り付ける。31日は市から生活保護受給者向け事業を受託する釧路社会的企業創造協議会が市内のビルに設けた作業スペースに、約10人が集合。長さ約16㍍、幅約3㍍の既製のネット2枚を、設置場所に合うサイズへと切断した。

協議会では、担い手が不足している漁網作りに、本年度から本格的に取り組んでいる。参加者は技術を高めながら、収入を得ている。ネットはMOOの施設整備を進める市が、普段、網を扱っているノウハウを生かしてもらおうと、発注を決めた。

漁網作りを手ほどきしている山本整網（厚岸町）の山本大輔社長は「これが、今までになかった作業を受けるきっかけになれば」と期待する。

MOOの避難施設兼体育館は、2012年に廃止された屋内プールを改修し、4月上旬にオープンする見通し。（木津谷学）



◀ 体育館内に設置するネットを加工する就労支援事業への参加者ら

釧路市の生活保護者支援事業

漁網以外の製作は初

カラマツ材と漁網でイス

釧路市は、地場産カラマツ材と漁網を使った折り畳みパイプイスを開発した。背もたれに使うカラマツ材は地元製材が加工し、座面に使う漁網張りは生活保護受給者の経済的な自立を支援する事業として実施。3月末までに計150脚を納入し、4月5日に釧路フィッシャーマンズワーフMOO隣にオープンする多目的アリーナに配置する。（根岸田雅弘）

釧路市が開発

イスは従来のパイプイスをベースに改良した。カラマツ材の背もたれは、釧路建設業組合生産部会によりはめ込まれ、背中を包むようにゆるやかなカーブに仕上げた。

座面の漁網は、定置網漁で使われていた網を自分の細かいものを使用。提供した山本製網（厚岸町）による

地場産カラマツ材と漁網を使ったパイプイスの試作品。座面の網張りは生活保護受給者の自立支援事業として行っている

座面張りは生活保護自立支援事業

150脚 MOO多目的アリーナに

と「イスに漁網を使ったケースは初めて」という。

市はこれまでも、釧路社会的企業創造協議会に委託し、生活保護受給者の自立支援のための漁網作り事業を行っており、今回もその一環として実施。

漁網を張る際に計108㌢幅の帯状をつり下げて引っ張り、座っても沈みすぎないように弾力を持たせる。

市は当初、座面もカラマツ材にする考えだったが、漁網を使うことで軽量や扱い易さが増すできないか模索。釧路工業技術センターの協力も得て試作品を完成させた。3月上旬から製作を始め、完成品を多目的アリーナのオープニングセレモニーで披露される。

市観光振興室は「カラマツと就労支援という釧路らしいコラボレーション製品になった。今回の製品化がカラマツ材の利用拡大と就労支援の充実につながれば」と期待している。

地域で支えられていた人が
支える人に回る仕組みを構築

生活困窮者支援を通じた地域づくり

- 漁業は、釧路市・厚岸町の基幹産業であるが、その下支えをしている漁網業界の現場（整網作業）で高齢化が進み、担い手不足により業界の存続が危惧されている。
- 整網作業は、機械化するのが困難であり、今後も手作業に頼るしかないのが現状である。
- 新たな担い手が生まれない大きな要因は、作業の習熟度が上がらないと、一定の収入が得られないことにある。
- そこで、本協議会の取り組む中間的就労自立の場として、整網作業に取り組み、同時に問題解決を図るのが狙いである。

自立支援プログラム・社会的居場所からわかったこと

☆入り口である「断らない相談」と出口である「地域づくり」の結節点（節）は『参加支援＝社会参加の場づくり』である。

☆それは、居場所であり（活発的・非活発的）・自尊心回復の場・承認の場である。

それは多様な地域資源がつながる中で支えられるもの⇒それ自身が地域の力（人がつながる）となる

旧音別町の就労・就農支援と暮らしの課題

◆人口減　２００５年平成の大合併で釧路市に
人口2,756人⇒2020年10月末1,675人に・・・歩いている人を見たことない

◆中心から周辺化し議員ゼロ、限界集落化

◆基幹産業は酪農・林業・・酪農ヘルパーはベトナム人、大企業の林業でパルプへ・・隙間産業はない

◆2㍍になる自生蕗・秋田蕗が枯渇

◆営農を辞める酪農家たち
生活困窮し点在する住民の孤立化防止。この地に根ざす取り組み

◆音別部会立ち上げ・・
・自己肯定感の回復中間的就労を通じた稼ぐ・つながる仕組みで地域の希望を生み出す

2017年中間的就労モデル（一社）音別ふき蕗団

人、広い空、緑、ふきの葉っぱ

ビジョン

「ふきで音別町が有名になり、
若い人から年配の方まで
どんな人も自信を持って
イキイキと暮らせる。」

2017年3月28日

社会的価値が高い取り組みに賛同し
いろんな人が協働している状態。

生産から、「商品開発・販売」のフェーズへ
もう一度、目的を確認して、
新たな関係性を構築していく必要性。

音別ふき蕗団と協働する団体（開発・販売）※仮説で入れている箇所もあります

音別ふき蕗団

・ふきの生産　・居場所づくり
・レシピ開発　・食育
・はたらく意識や誇りの醸成
・いまと未来の人財・担い手育成

ビジョン実現の手法
蕗の栽培・開発・販売を通した
地域の様々な人が交流する場、
多様な人がはたらき活躍する
居場所づくり
↓
ビジョンの実現
「蕗で音別の町が有名になり、
老若男女いきいきと暮らせる」

技術・ノウハウサポート

音別行政センター
地域振興課
・地域振興を目的にした支援

？？

グリーンコープ／
リバーグリーン
団体として〇〇を実現するために
・商品加工
・商品加工をした上での販売元

商品加工
開発販売

大地みらい信金
・新規開拓支援
・コミュニティ再生ノウハウ吸収
・根釧地域への波及、活性化
・賃金需要創出

経営
支援

全体コーディネート

事務局
調整

(一社)釧路社会的企業創造協議会
団体として〇〇を実現するために
・事務局機能
・生活困窮者自立支援充実
・社会復帰促進事業の効果向上

労働力・支援員の派遣

労働力

おんべつ学園
・労務の提供
・障害者支援の充実
・地域住民との交流支援

労働力

生活福祉事務所（行政）
・働く人のコーディネート
・そのための費用支援

販促支援

We＆E
団体として〇〇を実現するために
・プロジェクトマネジメント
（ファシリテーション）
・ブランディング支援
・販売支援

音別の未来のくらし
ワークショップ

付加価値向上

生産

一次産品の高付加価値化

- 生産性向上
- 品質向上
- 用途に応じた品種改良
- 貯蔵技術の開発・確立による供給期間の拡大

等

加工

食品の高付加価値化

- 加工技術の向上
- 安全性・有用性の分析評価
- 高付加価値商品の開発
- 省力化機械の開発・普及拡大

等

流通

物流効率化および物流コストの低減化

- 鮮度保持輸送技術の開発・普及拡大
- 小口共同配送システムの構築

等

販売

国内および海外への販路拡大

- 輸出可能性の高い食料・商品の発掘
- 海外輸出事業者等とのネットワーク構築

等

●logo_4c

パッケージ（2種）案

○ピクルス

同一

○佃煮（A5サイズ 148×210mm ぐらいの大きさ想定）

多少のズレ・傾きなどは、スルー。

→それも含めてデザインに

商品づくりの運用ポイント

人と人の関係性や取り組みそのものが
ふき蕗団の看板である。

↓

障害のある方がシールを貼ることで
多様な不揃いの商品になる。

世界に一つだけの商品

商品の付加価値を高めることができる。

ロゴに込めた思い

ただの「ふき」ではない。
社会的な価値がある取り組みであり、
地域の人たちの取り組みを昇華しており
そのあり方そのものを売るというもの。

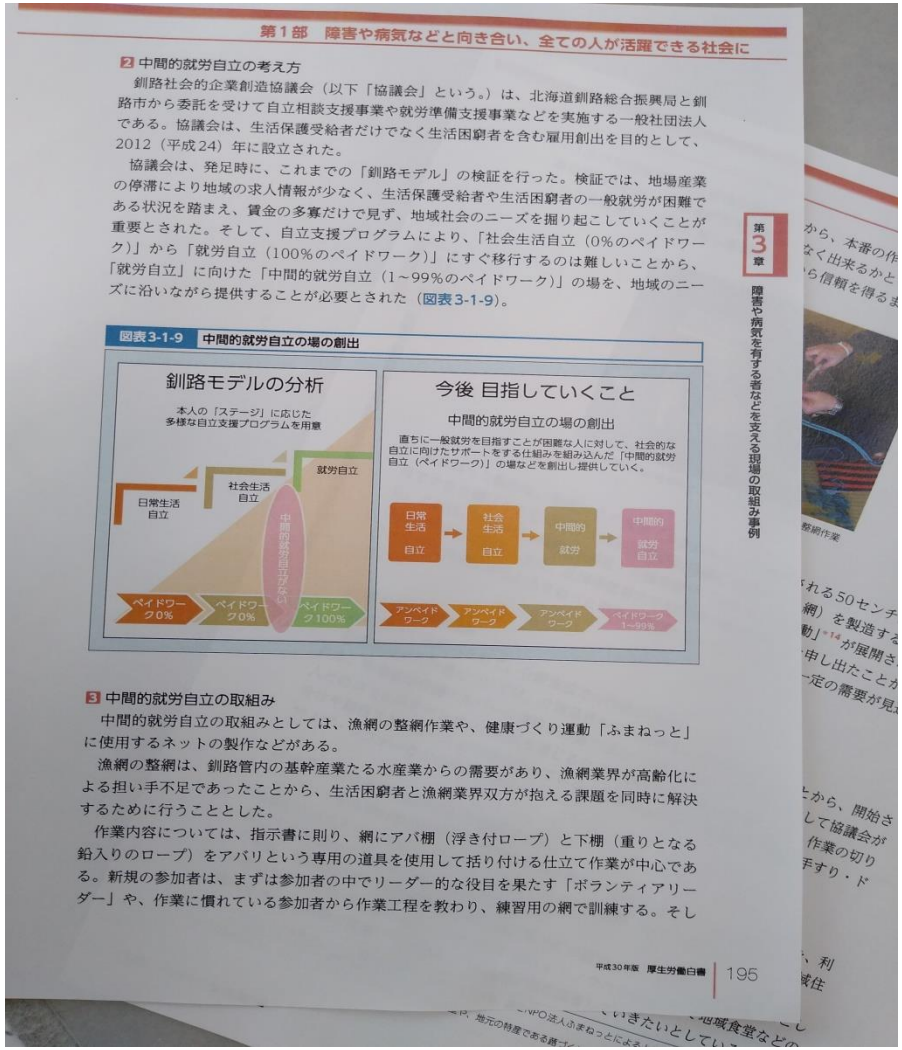
厚生労働省　平成30年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金 社会福祉推進事業
「地域共生社会の実現に資する中間的就労の多面的機能とあり方に関する調査研究事業」

地域共生社会実現のための
中間的就労のすすめ

多面的機能を活かす

一般社団法人 釧路社会的企業創造協議会

平成30年度厚生労働白書と地方の論理



第1部　障害や病気などと向き合い、全ての人が活躍できる社会に

2 中間的就労自立の考え方

釧路社会的企業創造協議会（以下「協議会」という。）は、北海道釧路総合振興局と釧路市から委託を受けて自立相談支援事業や就労準備支援事業などを実施する一般社団法人である。協議会は、生活保護受給者だけでなく生活困窮者を含む雇用創出を目的として、2012（平成24）年に設立された。

協議会は、発足時に、これまでの「釧路モデル」の検証を行った。検証では、地場産業の停滞により地域の求人情報が少なく、生活保護受給者や生活困窮者の一般就労が困難である状況を踏まえ、賃金の多寡だけで見ず、地域社会のニーズを掘り起こしていくことが重要とされた。そして、自立支援プログラムにより、「社会生活自立（0%のペイドワーク）」から「就労自立（100%のペイドワーク）」にすぐ移行するのは難しいことから、「就労自立」に向けた「中間的就労自立（1～99%のペイドワーク）」の場を、地域のニーズに沿いながら提供することが必要とされた（図表3-1-9）。

第3章　障害や病気を有する者などを支える現場の取組み事例

図表3-1-9　中間的就労自立の場の創出

釧路モデルの分析

本人の「ステージ」に応じた多様な自立支援プログラムを用意

日常生活自立　社会生活自立　就労自立　中間的就労自立がない

ペイドワーク0%　ペイドワーク0%　ペイドワーク100%

今後 目指していくこと

中間的就労自立の場の創出

直ちに一般就労を目指すことが困難な人に対して、社会的な自立に向けたサポートをする仕組みを組み込んだ「中間的就労自立（ペイドワーク）」の場などを創出し提供していく。

日常生活自立 → 社会生活自立 → 中間的就労 → 中間的就労自立

アンペイドワーク　アンペイドワーク　アンペイドワーク　ペイドワーク1～99%

3 中間的就労自立の取組み

中間的就労自立の取組みとしては、漁網の整網作業や、健康づくり運動「ふまねっと」に使用するネットの製作などがある。

漁網の整網は、釧路管内の基幹産業たる水産業からの需要があり、漁網業界が高齢化による担い手不足であったことから、生活困窮者と漁網業界双方が抱える課題を同時に解決するために行うこととした。

作業内容については、指示書に則り、網にアバ棚（浮き付ロープ）と下棚（重りとなる鉛入りのロープ）をアバリという専用の道具を使用して括り付ける仕立て作業が中心である。新規の参加者は、まずは参加者の中でリーダー的な役目を果たす「ボランティアリーダー」や、作業に慣れている参加者から作業工程を教わり、練習用の網で訓練する。そし

平成30年版　厚生労働白書　195

切り拓いてきた中間的就労の場づくりは社会参加の中心に位置する。
この中間的就労は地域共生社会における産業の在り方、コミュニティーに就労することに通底する。

中間的就労は人口減等、地方創生、地方分散型社会を支える可能性として考えていく（農福連携はその端緒）。

個別支援の就労支援・準備支援はこうした個人の自尊心、地域の自尊心の道程に位置づけたい